

令和4年度事業計画

公益財団法人 びわ湖芸術文化財団

1 基本方針

令和4年度は、滋賀県から受託する滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールおよび滋賀県立文化産業交流会館の第5期指定管理の2年目となる。

滋賀県文化振興基本方針（第3次）の基本目標である「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る」を実現するため、令和3年3月に改訂した「中期経営計画」に基づき、県立文化ホール2館体制のもと、びわ湖ホールでは、本県の舞台芸術の中心的な施設として、優れた舞台芸術を国内外に発信するとともに、地域に根ざした文化芸術活動を支援する文化産業交流会館と地域創造部が有機的に連携し、市町ホール等と協働しながら、県民誰もが文化芸術を身近に触れられる多彩な事業を展開する。

一方で、長引く新型コロナウイルス感染症により、文化芸術が受けた影響は大きい。改めて文化芸術の存在意義が再認識されている。こうした中、文化芸術の灯を絶やさず、将来に継承していくため、誰もが安心して劇場を訪れていただけるよう、引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に万全を期して、運営を行っていく。

2 事業計画

(1) 法人本部

県内の文化ホール、文化活動者・文化団体、福祉団体、学校、企業や地域等とのネットワークを充実させ、協働連携のもと、県民誰もが身近に文化芸術に触れられる機会を提供する。その中で、県民の創作活動の発表や鑑賞の場、文化情報の提供等を通じて、誰もが文化芸術に親しめる環境を整備するほか、障害の有無にかかわらず誰もがともに多彩な文化芸術活動に親しみ、活躍する環境を実現させる取組として、市町の文化ホールと地域、住民がつながるためのモデル事業等を行い、障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくりを進める。

さらに、地域で活動する若手アーティストやコーディネーターの育成・支援事業、滋賀の魅力を発信する事業等を展開し、文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀の実現を目指す。

これらの事業への取組をアピールし、企業、団体や個人から財団運営に対する支援にも結びつけていく。

ア 自主事業

県内の文化ホールとの文化芸術事業等の情報共有や事業企画等のスキルアップを図り、協働連携しながら、誰もが身近に文化芸術に触れられる機会を提供するとともに、地域で活動するアーティストや地域と文化芸術活動をつなぐ人材を発掘・育成する事業を展開する。

イ 受託事業

滋賀県芸術文化祭開催事業、湖国文化情報「れいかる」や総合文化誌「湖国と文化」編集発行等の県内文化情報提供事業、障害者の文化芸術活動を支える拠点づくり事業を受託する。

ウ 独自事業

文化団体、芸術家、企業、学術、行政等、多様な分野で活躍する者や団体で組織するフォーラムの事務局運営を担い、各分野を越えた交流や「文化で滋賀を元気に！」する事業を推進し、本県の文化と経済の連携による地域の活性化を目指す。

エ 広報営業活動

財団全体を一体とらえた広報活動ならびにチケット発売や企業からの支援獲得等の営業活動を行う。

(2) 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

県民が舞台芸術に親しむ機会を提供するとともに、舞台芸術の振興および普及を図り、県民の文化の向上に資するという滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールの設置目的に則り、音楽、歌劇、演劇、舞踊、伝統芸能等の舞台芸術公演および鑑賞教室や研修等、舞台芸術普及のための事業を企画・実施するとともにホール、練習室等の貸館業務および施設の管理運営等を行う。

未だ新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、自主事業の企画運営等、様々に制約を受けることとなるが、より工夫を凝らして事業運営を行うとともに、障害をお持ちであったり高齢であったりなど、様々な理由でホールまで来られない方々に配慮して、公演の配信やアウトリーチ事業の充実に努める。

ア 自主事業

大ホールにおいて、びわ湖ホールプロデュースオペラ「ニュルンベルクのマイスタージンガー」や、沼尻竜典オペラセレクション「セビリアの理髪師」をはじめとしたオペラやダンス、オーケストラなど12事業15公演を、中ホールにおいて、オペラへの招待「ファルスタッフ」のほか、演劇、狂言などの9事業17公演を、小ホールにおいて、室内楽、専属声楽アンサンブル定期公演など7事業14公演を実施する。

また、普及事業として、舞台芸術の普及を図るため、オペラ入門講座、公演に関連したワークショップやプレトークなどを実施するとともに、次世代を担う青少年が良質な舞台芸術に触れる機会を提供する「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」（ホールの子事業）を引き続き実施する。

併せて、誰もが気軽に音楽を楽しむ音楽祭「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭」や、地域と連携して取り組む「びわ湖大津 秋の音楽祭」などにより、賑わいづくりを進める。

さらに、びわ湖ホール声楽アンサンブルが「オペラへの招待」などのソリストおよび合唱を担うとともに、定期公演や「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！」（ホールの子事業）、「学校巡回公演」、「ふれあい音楽教室」などの各種事業のほか、依頼公演への出演を行う。また、引き続き文化庁の委託を受け、国内各地の小学校を巡回して演奏会を行う。

イ 広報営業活動

びわ湖ホール声楽アンサンブルの活動、自主事業、普及事業等に関する情報が記事やニュースで取り上げられるようマスコミ等へ効果的な情報提供を行うとともに、リレーションを構築する。

ホームページの充実を図り、メールマガジン、SNS等による公演情報の発信、舞台芸術情報誌「湖響」（年4回）および公演チケット情報誌「Stage」（毎月）の発行を行う。

また、想定される購買層やチケットの販売状況を勘案し、顧客の動向に即した広告宣伝（新聞・雑誌・ウェブサイト・電波・SNS・交通広告等）を行う。

併せて、オフィシャルスポンサー制度をはじめとする企業団体等の協賛制度の周知・利用を積極的に進め、びわ湖ホールのファンを増やし、チケット販売、友の会会員、寄附者等の増加につなげるために、地域の企業、経済団体、関係施設・団体等との交流を深めるとともに、各会員との良好な関係継続に努める。友の会の特別会員・サポート会員については、そのメリットを積極的にPRし、個人・企業を問わず広く加入を勧める。

さらに、人のネットワークによる観客創造を目的として、劇場サポーターを対象に研修を行うとともに、青少年の舞台芸術への関心を高めるため、引き続きシアターメイツ会員を募集し、一部公演のチケットの割引販売、立ち稽古等の見学会を実施する。また、多くの人びわ湖ホールへの親しみを持つことを目的に館内見学ツアー（まるっとステージツアー）を実施するほか、舞台芸術情報サロンの運営等を行う。

(3) 滋賀県立文化産業交流会館

県立文化施設における北の拠点として、地域や施設の特性を生かし、優れた舞台芸術の創造や文化、産業の振興に努めるとともに、ホール、会議室等の貸館業務、SOHO施設の提供および施設の管理運営等を行う。

当会館は、古典芸能の取組を始めて10周年の節目となる令和3年度に、総務大臣から地域資源である伝統文化の普及・振興に貢献したとして「地域創造大賞」を受賞、また、関西で唯一、邦楽の専門課程を有する大阪音楽大学と連携・協力協定を締結しており、湖北地域の歴史的性を生かした特設舞台「長栄座」における「夏のフェスティバル」など、さらに古典芸能事業の内容の充実を一層図り、全国に発信していく。併せて、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により安心安全に施設利用できる環境づくりに努め、施設の稼働率と収入の向上を図る。

ア 自主事業

引き続き特設舞台「長栄座」での邦楽・邦舞の自主制作公演、邦楽を中心とした実演家の養成や古典芸能キッズワークショップを行うとともに、子どもたちがコミュニケーションを築きながら取り組む「次世代育成ユースシアター事業」や、小中学校および特別支援学校へアーティストを派遣する「和のじかん」、イベントホールの特性を生かしたマーチングバンドの祭典「フィールドアート」などを開催する。

また、産業分野との連携により起業を目指す人たちの情報交換会「ビジネスカフェ in 文化産業交流会館」や「長栄座」事業の開催に合わせて「近江のあたらしい伝統産業展」を実施する。

イ 広報営業活動

舞台芸術情報誌「湖響」（年4回）への記事掲載や県北部に購読者の多い中日新聞への寄稿（月2回）、ホームページ

およびSNSによる情報発信、マスメディアへのプレスリリースを行うほか、ダイレクトメール送付やメールマガジン配信等による広報活動を行う。

また、びわ湖ホール友の会会員特典の招待公演として、当会館公演も組み入れるなど、びわ湖ホール、地域創造部を一体的にとらえ、それぞれの営業機会を相互に利用する効果的な営業活動を行う。

収 支 予 算 書

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	566	90	476	
受取会費	26,150	25,000	1,150	
利用料金収益	167,101	165,674	1,427	
事業収益	245,636	250,921	△ 5,285	
受取補助金等	2,529,750	1,799,625	730,125	
受取寄付金	21,050	45,745	△ 24,695	
雑収益	9,488	7,086	2,402	
引当金取崩額	7,771	1,456	6,315	
経常収益計	3,007,512	2,295,597	711,915	
(2) 経常費用				
事業費	3,053,524	2,336,946	716,578	
管理費	12,963	13,215	△ 252	
経常費用計	3,066,487	2,350,161	716,326	
(うち人件費)	583,044	571,266	△ 11,778	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 58,975	△ 54,564	△ 4,411	
評価損益等計	-	-	-	
当期経常増減額	△ 58,975	△ 54,564	△ 4,411	
税引前当期一般正味財産増減額	△ 58,975	△ 54,564	△ 4,411	
法人税、住民税及び事業税	124	124	-	
当期一般正味財産増減額	△ 59,099	△ 54,688	△ 4,411	
一般正味財産期首残高	342,709	343,953	△ 1,244	
一般正味財産期末残高	283,610	289,265	△ 5,655	
II 指定正味財産増減の部				
受取寄付金	13,035	13,035	-	
一般正味財産への振替額	△ 21,050	△ 45,745	24,695	
当期指定正味財産増減額	△ 8,015	△ 32,710	24,695	
指定正味財産期首残高	183,750	195,128	△ 11,378	
指定正味財産期末残高	175,735	162,418	13,317	
III 正味財産期末残高	459,345	451,683	7,662	

収 支 予 算 書 内 訳 表

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 31 日

(単位 千円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等会計	法人会計	内部取 引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	283	-	283	-	566
受取会費	13,075	-	13,075	-	26,150
利用料金収益	71,209	95,892	-	-	167,101
事業収益	226,746	18,890	-	-	245,636
受取補助金等	2,159,391	370,359	-	-	2,529,750
受取寄付金	21,050	-	-	-	21,050
雑収益	8,215	1,253	20	-	9,488
引当金取崩額	7,754	-	17	-	7,771
経常収益計	2,507,723	486,394	13,395	-	3,007,512
(2) 経常費用					
事業費	2,667,097	386,427	-	-	3,053,524
管理費	-	-	12,963	-	12,963
経常費用計	2,667,097	386,427	12,963	-	3,066,487
(うち人件費)	499,533	80,051	3,460	-	583,044
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 159,374	99,967	432	-	△ 58,975
評価損益等計	-	-	-	-	-
当期経常増減額	△ 159,374	99,967	432	-	△ 58,975
他会計振替額	98,326	△ 99,967	1,641	-	-
税引前当期一般正味財産増減額	△ 61,048	-	2,073	-	△ 58,975
法人税、住民税及び事業税	-	124	-	-	124
当期一般正味財産増減額	△ 61,048	△ 124	2,073	-	△ 59,099
一般正味財産期首残高	247,495	45,193	50,021	-	342,709
一般正味財産期末残高	186,447	45,069	52,094	-	283,610
II 指定正味財産増減の部					
受取寄付金	13,035	-	-	-	13,035
一般正味財産への振替額	△ 21,050	-	-	-	△ 21,050
当期指定正味財産増減額	△ 8,015	-	-	-	△ 8,015
指定正味財産期首残高	120,798	1,652	61,300	-	183,750
指定正味財産期末残高	112,783	1,652	61,300	-	175,735
III 正味財産期末残高	299,230	46,721	113,394	-	459,345

資金調達および設備投資の見込みについて

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 31 日

1 資金調達の見込みについて

なし

2 設備投資の見込みについて

なし

令和3年度事業報告

公益財団法人 びわ湖芸術文化財団

県域全体の文化振興施策を総合的に推進するため、財団の強みを生かし、効率的・効果的な事業展開に努めるとともに、滋賀県から受託している滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールおよび滋賀県立文化産業交流会館の当期指定管理者の初年度として、これまで培ってきたノウハウを生かし、当該施設の適切な管理運営を行った。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外アーティストの招聘については引き続き厳しい状況が継続しているが、国内アーティストの活用による事業展開を図った。文化庁や経済産業省のコロナ対策関連助成金を活用して事業を実施し、財源の確保に努めるとともに、感染症の拡大防止対策に万全を期しつつ、安心して劇場を訪れていただけるよう管理運営に努めた。

1 法人本部

(1) 自主事業等

県内の文化ホール、文化活動者・文化団体、学校、企業や地域等とのネットワークを充実させ、協働連携のもと、県民が身近に文化芸術に触れられる機会を提供するとともに、次代を担うアーティストや地域とアーティストをつなぐコーディネーターの発掘と育成に努めた。また、県から「未来へつなぐしが文化活動応援事業」や「文化芸術公演支援事業」の助成金交付事務を受託し、新型コロナウイルス感染症により影響を受けたアーティスト等への支援を行った。

区 分		事業数	公演数	入場者数(人)
自主事業	地域連携	8	24	3,130
	情報提供	2	—	—
	計	10	24	3,130
受託事業		5	22	201,786
独自事業		2	—	—
計		17	46	204,916

2 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

(1) 自主事業等

ア 自主事業

びわ湖ホール独自の自主制作による創造活動を基礎にしながら、県民をはじめ多くの方々に国際水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わい、繰り返して来場いただけることを目指して、オペラをはじめ、オーケストラ、室内楽、バレエ、ダンス、演劇、伝統芸能など幅広い多彩なジャンルの優れた公演を開催した。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「近江の春 びわ湖クラシック音楽祭 2021」については、前年度に計画していた小ホール公演を大ホールに会場を移して開催したほか、プロデュースオペラ「パルジファル」をセミステージ形式で上演するなど、一年を通して感染症対策を講じながら、公演を工夫して開催し

た。また、リハーサル見学会や学校との連携事業などの舞台芸術の普及事業を実施した。

また、「コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金」を活用して、子ども向けオペラ「泣いた赤おに」を新制作の上、上演した。

8月から、従来の紙でのアンケートに加えて、公演終了後にスマホや自宅のパソコンから回答できるウェブアンケートを開始し、回答率の向上を図った。

【自主事業】

区 分		事 業 数	公 演 数	入場者数 (人)
自 主 公 演	大 ホ ー ル	14	32	21,383
	中 ホ ー ル	7	11	4,775
	小 ホ ー ル	6	11	2,363
	その他	1	1	286
	計	28	55	28,807
普 及 事 業		13	66	14,712
共 催 等		20	46	11,358
計		61	167	54,877

【配信事業】

区 分	事 業 数	公 演 数	視聴者数 (人)
配 信 事 業	6	19	549

イ 受託事業

文化庁委託事業である「文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－」として声楽アンサンブルによる「歌い継ぎたい 美しい日本のうた」公演を九州・沖縄地方において、小中学校7校、計14公演実施した。

また、県委託事業として、新制作によるオペラ「泣いた赤おに」を八日市文化芸術会館で開催した。

ウ 専属声楽アンサンブル運営

びわ湖ホールの創造活動の核として、「オペラへの招待」シリーズのソリストや「プロデュースオペラ」の合唱を担うとともに、定期公演をはじめ、各種自主事業に出演した。

また、県や県教育委員会等との連携による「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」（ホールの子事業）、小学校等の体育館でコンサートを行う「学校巡回公演」、小学校の授業に声楽アンサンブルの団員とピアニストが参加し、歌唱指導等を行う「ふれあい音楽教室」を実施し、人生の早い段階で本物の舞台芸術に触れる機会の提供に努めた。

依頼公演は、「美しい日本の歌」兵庫公演、「NHKニューイヤーオペラコンサート2022」等に出演したほか、各地の公演依頼に積極的に応じた。

エ ネットワークの形成

滋賀県の公立文化施設協議会の会長館として館長会議を2回開催したほか、びわ湖舞台芸術スタッフセミナーとしてアートマネジメント研修などを実施し、県内公立文化施設のネットワーク形成と職員の能力向上

に努めた。

(2) 広報営業活動

ア 広報営業活動

びわ湖ホールからの情報発信とチケットの販売促進を図るため、パブリシティ活動、インターネットなどによる幅広い広報活動、情報誌の発行、新聞・雑誌・電波による広告のほか、法人本部営業部と一体となり、協賛支援やスポンサーの確保、施設利用についての営業活動を行った。

地域創造部や文化産業交流会館も一体的にとらえた情報提供を行うよう工夫するとともに、広報媒体や営業の機会を相互に有効活用するなど、財団としての強みも最大限活用するよう努めた。

また、地元企業等の協力も得て、鉄道駅構内や企業店頭のパンフレットラックに公演チラシを設置するなど、幅広い層への広報活動を行った。

イ チケット販売

文化団体、職域団体等の組織販売に努めるとともに、大型公演にはSS席を適切に配置して特別感を醸成するなど、チケットの効果的な販売活動を行った。さらに、プロデュースオペラ「バルジファル」では、SS席を寄附金付きのチケットとして取り扱った。また、若年層向けに、ほぼすべての公演に青少年料金（25歳未満）を設定し、U30席（30歳以下料金）・U24席（24歳以下料金）、シアターメイツ対象公演を設けるなど顧客の拡大に努めた。

また、インターネット、スマートフォンでのチケットの予約購入、クレジット決済、コンビニエンスストアでのチケット受取など利便性を高め、チケットの販売促進に努めた。

ウ 貸館利用促進

顧客法人等への営業活動により、新規利用者の開拓や既利用者の継続的利用など施設の利用促進に努めた。

エ オフィシャルスポンサー

特定の自主事業に対する協賛（公演スポンサー）、あるいは年間を通じた自主事業全体への協賛をいただく「びわ湖ホールオフィシャルスポンサー」に応募いただくよう働きかけを行った。年間スポンサーから事業運営に支援いただくとともに、各スポンサー企業の広告枠をびわ湖ホールウェブサイトや情報誌に掲載するなど、劇場を広告・宣伝の媒体として活用いただいた。

(ア) 年間スポンサー 2者（令和4年3月末現在）

(イ) 公演スポンサー 1者（オペラへの招待 歌劇「つばめ」）

オ 友の会運営

顧客の拡大・定着を図り、チケット販売等の営業活動を促進するため、友の会一般会員、サポート会員、特別会員を募集し、情報の提供とチケットの優先販売を行った。特に、特別会員については、寄附者、サポート会員、劇場サポーター、チケット購入者に対して個別に営業を行い、サポート会員については、募集パンフレットを公演時に配布するなど、会員募集に注力した。

会員数（令和4年3月末現在）

一般会員 2,925人（クレジット会員 1,086人、非クレジット会員 1,839人）

サポート会員 370者 393口

特別会員 138者 166口

カ 人と人とのネットワークづくり

(ア) 劇場サポーター運営

人のネットワークによる観客創造を目的に、第1期から第26期までの劇場サポーター（136名）の研修・講座を行うとともにサポーター活動を通じ、舞台芸術の普及に努めた。例年以上に多くの参加があ

り、熱心な取組となった。

(イ) シアターメイツ

青少年の舞台芸術への関心を高めるため、シアターメイツ会員（6歳以上18歳以下の青少年等）を募集した。シアターメイツ通信を4回発行し、優待公演等を案内するとともに、びわ湖ホールで開催する青少年向けのイベント等を紹介した。シアターメイツ限定イベントとして、春休み期間中に「声楽アンサンブル第74回定期公演」のリハーサル見学会を実施した。

会員数（令和4年3月末現在）944人

(ウ) 舞台芸術情報サロン・館内見学ツアー等

誰もが気軽に舞台芸術に関する情報に触れられるよう、舞台芸術情報サロンを運営し、各種サービスの提供を行うとともに絵はがきやエコバッグ、タオルに加え、「神々の黄昏」ブルーレイディスク、「カルメン」キャンディー、「つばめ」ノート・クリアファイルなどのびわ湖ホールのオリジナルグッズなどを販売した。また、一般の見学者を対象に、館内見学ツアーを実施した。

(3) 貸館事業

利用者の立場に立ったきめ細やかな対応を徹底し、リピーターの確保を含め施設利用の促進に努めた。「もしサポ滋賀」の導入および消毒液や非接触体温計の設置をはじめ、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底を引き続き行うとともに、まん延防止等重点措置の適用等に伴う開館時間の短縮や利用料金の還付について丁寧に説明して理解と協力を求め、対応した。

区 分	貸館利用件数	入 場 者 数(人)
大 ホ ー ル	53	43,000
中 ホ ー ル	26	8,413
小 ホ ー ル	90	12,042
計	169	63,455

(4) 管 理 運 営

施設の適正な管理を行うことで、施設の安全な運用や、長寿命化に資するとともに、びわ湖ホールとして質の高いサービスを継続的に提供することができた。また、施設が老朽化する中で、利用者ニーズに合わせた効果的な改修を行い、安全・安心な施設管理に努めた。

トイレの改修について、令和元年度の大・中ホール、令和2年度の小ホールや楽屋に続き、管理部門の和式トイレの洋式化・温水洗浄便座化等の改修を行った。

なお、駐車場の令和3年度の総利用台数は、69,299台であった。

3 滋賀県立文化産業交流会館

(1) 自 主 事 業 等

ア 自主事業

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置に沿って、感染拡大防止対策を取りながら、県北部の文化振興の拠点として施設や地域の特性を生かした特設舞台・芝居小屋「長栄座」での自主制作公演をはじめ、邦楽・邦舞を次世代へ継承する古典芸能事業、子どもや青少年による県民参加ミュージカル、滋賀にゆかりのある若手演奏家等による室内楽演奏会など幅広い分野の舞台

芸術公演を行った。さらに、学校で児童・生徒が身近に和楽器等の生演奏に触れる機会を提供するアウトリーチ事業を地域創造部と連携して取り組んだ。

地域資源である伝統文化の普及、振興に貢献したとして、当会館の取り組みが評価され、令和3年度地域創造大賞（総務大臣賞）を受賞した。

区 分	事業数	公演数	入場者数(人)
イベントホール	12	13	4,744
小 劇 場	5	15	1,412
普 及 事 業	11	35	15,545
共催事業等	4	4	2,367
計	32	67	24,068

イ ネットワークの形成

滋賀にゆかりのある演奏家の出演、起業家を対象にしたビジネスセミナー、県内の伝統産業や特産品等の展示即売会など、多方面でのネットワークの構築に努めた。また、文化庁「アートキャラバン事業」を通じた市町ホールとの連携事業の実施や大阪音楽大学と連携協力に関する協定の締結などネットワークの強化に努めた。

(2) 広報営業活動

ア 広報営業活動

施設利用の拡大および公演チケットの販売促進のため、ホームページ、SNS等を活用した情報発信や、びわ湖ホールが発行する舞台芸術情報誌「湖響」内の「えいじゃに」コーナーへの文化産業交流会館情報の掲載をはじめ、マスメディアへのプレスリリース、新聞・情報誌・メディア等への広告掲載、ダイレクトメールや会員へのメールマガジンの配信など、広範囲にわたる広報活動を積極的に行った。また、基金や協賛団体の確保のための営業活動を行った。

イ チケット販売

ニーズの高いイベントについては、各企業や各プレイガイドで先行受付を行うなど集中的な販売に努めた。また、蓄積した顧客情報を活用し、ダイレクトメールのほかパソコンやスマートフォンにチケット情報の案内をメール配信、適宜SNS広告を導入するなど、効果的なチケットの販売活動を行った。チケット受取や決済の方法についてもコンビニエンスストアでの受取やクレジットカード決済で利便性を高め、顧客の拡大に努めた。

会館ホームページを経由したインターネットでの購入枚数 15事業 738枚

ウ メールマガジン「アートフレンド」運営

文化産業交流会館の新規顧客やチケット販売数の拡大を図るため、引き続きアートフレンド会員を募集し、定期的な会員向けの情報提供を行った。

アートフレンド会員数(令和4年3月末現在) 2,113人

(3) 貸 館 事 業

新規顧客の開拓のほか、既利用者団体の継続利用などへの働きかけを行い、貸館の利用促進に努めた。

令和元年度から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、貸館の利用形態が規模の縮小、リモート・オンライン化に進む傾向にあることや、トイレ改修工事に伴う貸館停止期間があったが、令和3年度は令和

2年度に比して回復の兆しが見える結果となった。

区 分	貸館利用件数	入 場 者 数(人)
イベントホール	115	18,640
小 劇 場	42	2,846
会議室・練習室	570	12,269
計	727	33,755

(4) 管 理 運 営

多彩な催しで利用できる公共施設として、適切な人材を配置し、文化利用および産業利用の両面においてフレキシブルに対応し、施設利用の促進に努めた。また、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置として、館内要所への三密回避の啓発表示や除菌消毒剤配置、「もしサポ滋賀」の導入、定期的な換気作業等のほか、空気清浄機やサーモグラフィーカメラ、飛沫防止アクリル板等の機器物品類を設置し、施設利用者の予防環境の向上を図った。

ア ホール等の管理運営

法令に基づいた適正で安全・安心な施設設備の維持管理に当たるとともに、質の高いサービスの提供を行った。長年の懸案事項であったトイレの洋式化をはじめ、イベントホールの音響を改善するため、移动式音響反射板を整備するなど、開館から33年を経過した施設設備の改修や改善を行った。

イ 来館者サービス

市町ホール・文化団体等の入場券販売など、来館者へのサービスを行った。

正味財産増減計算書

自 令和 3 年 4 月 1 日
至 令和 4 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	566,303	478,272	88,031
受取会費	30,276,108	23,434,708	6,841,400
利用料金収益	205,702,877	113,041,488	92,661,389
事業収益	170,016,960	99,570,552	70,446,408
受取補助金等	1,687,073,878	1,739,513,497	△ 52,439,619
受取寄付金	748,186	1,186,134	△ 437,948
雑収益	13,546,617	44,309,643	△ 30,763,026
経常収益計	2,107,930,929	2,021,534,294	86,396,635
(2) 経常費用			
事業費用	2,060,520,419	1,933,034,729	127,485,690
管理費用	8,494,690	9,817,169	△ 1,322,479
経常費用計	2,069,015,109	1,942,851,898	126,163,211
(うち人件費)	590,765,612	563,297,648	27,467,964
評価損益等調整前当期経常増減額	38,915,820	78,682,396	△ 39,766,576
評価損益等計	-	-	-
当期経常増減額	38,915,820	78,682,396	△ 39,766,576
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
前期損益修正益	7,657,812	-	7,657,812
経常外収益計	7,657,812	-	7,657,812
(2) 経常外費用			
前期損益修正損	197,961	-	197,961
経常外費用計	197,961	-	197,961
当期経常外増減額	7,459,851	-	7,459,851
税引前当期一般正味財産増減額	46,375,671	78,682,396	△ 32,306,725
法人税、住民税及び事業税	122,200	122,200	-
当期一般正味財産増減額	46,253,471	78,560,196	△ 32,306,725
一般正味財産期首残高	414,790,149	336,229,953	78,560,196
一般正味財産期末残高	461,043,620	414,790,149	46,253,471
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	11,446,327	11,944,802	△ 498,475
特定資産運用益	503	494	9
一般正味財産への振替額	△ 748,186	△ 1,186,134	437,948
当期指定正味財産増減額	10,698,644	10,759,162	△ 60,518
指定正味財産期首残高	198,144,983	187,385,821	10,759,162
指定正味財産期末残高	208,843,627	198,144,983	10,698,644
III 正味財産期末残高	669,887,247	612,935,132	56,952,115

正味財産増減計算書内訳表

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益事業 等会計	法人会計	内部取 引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	283,151	-	283,152	-	566,303
受取会費	15,138,054	-	15,138,054	-	30,276,108
利用料金収益	95,947,568	109,755,309	-	-	205,702,877
事業収益	170,016,960	-	-	-	170,016,960
受取補助金等	1,451,675,088	235,398,790	-	-	1,687,073,878
受取寄付金	748,186	-	-	-	748,186
雑収益	10,014,131	3,522,111	10,375	-	13,546,617
経常収益計	1,743,823,138	348,676,210	15,431,581	-	2,107,930,929
(2) 経常費用					
事業費	1,826,788,362	233,732,057	-	-	2,060,520,419
管理費	-	-	8,494,690	-	8,494,690
経常費用計	1,826,788,362	233,732,057	8,494,690	-	2,069,015,109
(うち人件費)	513,000,498	75,123,571	2,641,543	-	590,765,612
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 82,965,224	114,944,153	6,936,891	-	38,915,820
評価損益等計	-	-	-	-	-
当期経常増減額	△ 82,965,224	114,944,153	6,936,891	-	38,915,820
2 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
前期損益修正益	5,772,534	1,885,278	-	-	7,657,812
経常外収益計	5,772,534	1,885,278	-	-	7,657,812
(2) 経常費用					
前期損益修正損	171,583	26,378	-	-	197,961
経常外費用計	171,583	26,378	-	-	197,961
当期経常外増減額	5,600,951	1,858,900	-	-	7,459,851
他会計振替額	114,115,946	△ 115,079,528	963,582	-	-
税引前当期一般正味財産増減額	36,751,673	1,723,525	7,900,473	-	46,375,671
法人税、住民税及び事業税	-	122,200	-	-	122,200
当期一般正味財産増減額	36,751,673	1,601,325	7,900,473	-	46,253,471
一般正味財産期首残高	319,791,355	45,317,148	49,681,646	-	414,790,149
一般正味財産期末残高	356,543,028	46,918,473	57,582,119	-	461,043,620
II 指定正味財産増減の部					
受取寄付金	11,446,327	-	-	-	11,446,327
特定資産運用益	503	-	-	-	503
一般正味財産への振替額	△ 748,186	-	-	-	△ 748,186
当期指定正味財産増減額	10,698,644	-	-	-	10,698,644
指定正味財産期首残高	135,193,433	1,651,550	61,300,000	-	198,144,983
指定正味財産期末残高	145,892,077	1,651,550	61,300,000	-	208,843,627
III 正味財産期末残高	502,435,105	48,570,023	118,882,119	-	669,887,247

貸 借 対 照 表

令和 4 年 3 月 31 日現在

(単位 円)

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	297,375,653	278,361,164	19,014,489
未収金	164,754,914	305,268,701	△ 140,513,787
前払金	390,752	414,497	△ 23,745
仮払金	-	12,064	△ 12,064
前払費用	196,350	-	196,350
刊行物	9,983,209	9,705,531	277,678
販売促進物	1,441,740	1,476,681	△ 34,941
預り印紙・証紙	-	967,400	△ 967,400
流動資産合計	474,142,618	596,206,038	△ 122,063,420
2 固定資産			
基本財産			
基本財産預金	13,500	13,500	-
投資有価証券	122,586,500	122,586,500	-
基本財産合計	122,600,000	122,600,000	-
特定資産			
退職給付引当資産	47,342,021	56,906,244	△ 9,564,223
退職給付準備預金	13,737,248	13,737,248	-
事業推進積立資産	16,526,962	42,473,062	△ 25,946,100
運営調整積立資産	100,289,993	100,288,057	1,936
舞台芸術基金積立資産	62,576,863	51,338,675	11,238,188
夢キラリ文化基金預金	1,879,515	1,674,507	205,008
文化産業交流会館開館35周年記念事業積立資産	4,000,000	3,000,000	1,000,000
びわ湖ホール開館25周年記念事業積立資産	4,000,000	3,000,000	1,000,000
オリンピック・パラリンピック開催記念(びわ湖ホール)事業積立資産	-	30,000,000	△ 30,000,000
オリンピック・パラリンピック開催記念(文化産業交流会館)事業積立資産	-	10,000,000	△ 10,000,000
沼尻芸術監督退任特別事業積立資産	52,800,000	26,400,000	26,400,000
新芸術監督就任記念事業積立資産	35,200,000	17,600,000	17,600,000
長栄座「むすび」完成記念事業積立資産	5,000,000	-	5,000,000
令和6年度プロデュースオペラ積立資産	13,000,000	-	13,000,000
びわ湖ホールリニューアル記念積立資産	8,000,000	-	8,000,000
什器備品	1	1	-
ソフトウェア	-	744,552	△ 744,552
特定資産合計	364,352,603	357,162,346	7,190,257
その他固定資産			
車両運搬具	2	209,453	△ 209,451
什器備品	2	2	-

科 目	本 年 度	前 年 度	比 較
その他固定資産合計	4	209,455	△ 209,451
固定資産合計	486,952,607	479,971,801	6,980,806
資 産 合 計	961,095,225	1,076,177,839	△ 115,082,614
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	166,046,015	287,246,400	△ 121,200,385
前受金	27,167,039	39,379,825	△ 12,212,786
預り金	12,974,847	17,561,728	△ 4,586,881
未払法人税等	122,200	122,200	—
県使用料預り金	589,580	539,058	50,522
未払消費税等	6,316,500	30,864,600	△ 24,548,100
賞与引当金	30,649,776	30,622,652	27,124
流動負債合計	243,865,957	406,336,463	△ 162,470,506
2 固定負債			
退職給付引当金	47,342,021	56,906,244	△ 9,564,223
固定負債合計	47,342,021	56,906,244	△ 9,564,223
負債合計	291,207,978	463,242,707	△ 172,034,729
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	208,843,627	198,144,983	10,698,644
(うち基本財産への充当額)	(122,600,000)	(122,600,000)	(—)
(うち特定資産への充当額)	(86,243,627)	(75,544,983)	(10,698,644)
2 一般正味財産	461,043,620	414,790,149	46,253,471
(うち特定資産への充当額)	(230,766,955)	(224,711,119)	(6,055,836)
正味財産合計	669,887,247	612,935,132	56,952,115
負債及び正味財産合計	961,095,225	1,076,177,839	△ 115,082,614

貸借対照表内訳表

令和4年3月31日現在

(単位 円)

科 目	公益目的 事業会計	収益目的 事業会計	法人会計	内部取 引消去	合 計
I 資産の部					
1 流動資産					
現金預金	178,656,494	60,904,059	57,815,100	-	297,375,653
未収金	149,110,569	15,619,005	25,340	-	164,754,914
前払金	328,392	60,860	1,500	-	390,752
前払費用	162,970	33,380	-	-	196,350
刊行物	9,983,209	-	-	-	9,983,209
販売促進物	1,125,341	316,399	-	-	1,441,740
流動資産合計	339,366,975	76,933,703	57,841,940	-	474,142,618
2 固定資産					
基本財産					
基本財産預金	6,750	-	6,750	-	13,500
投資有価証券	61,293,250	-	61,293,250	-	122,586,500
基本財産合計	61,300,000	-	61,300,000	-	122,600,000
特定資産					
退職給付引当資産	39,595,330	7,716,358	30,333	-	47,342,021
退職給付準備預金	11,828,948	1,894,000	14,300	-	13,737,248
事業推進積立金資産	16,526,962	-	-	-	16,526,962
運営調整積立資産	100,289,993	-	-	-	100,289,993
舞台芸術基金積立資産	62,576,863	-	-	-	62,576,863
夢キラリ文化基金預金	1,879,515	-	-	-	1,879,515
文化産業交流会館開館35周年記念事業積立資産	4,000,000	-	-	-	4,000,000
びわ湖ホール開館25周年記念事業積立資産	4,000,000	-	-	-	4,000,000
沼尻芸術監督退任特別事業積立資産	52,800,000	-	-	-	52,800,000
新芸術監督就任記念事業積立資産	35,200,000	-	-	-	35,200,000
長栄座「むすひ」完成記念事業積立資産	5,000,000	-	-	-	5,000,000
令和6年度プロデュースオペラ積立資産	13,000,000	-	-	-	13,000,000
びわ湖ホールリニューアル記念積立資産	8,000,000	-	-	-	8,000,000
什器備品	1	-	-	-	1
特定資産合計	354,697,612	9,610,358	44,633	-	364,352,603
その他固定資産					
車両運搬具	-	1	1	-	2
什器備品	1	-	1	-	2

科 目	公益目的 事業会計	収益目的 事業会計	法人会計	内部取 引消去	合 計
その他固定資産合計	1	1	2	—	4
固定資産合計	415,997,613	9,610,359	61,344,635	—	486,952,607
資産合計	755,364,588	86,544,062	119,186,575	—	961,095,225
II 負債の部					
1 流動負債					
未払金	146,444,212	19,593,331	8,472	—	166,046,015
前受金	24,048,084	3,118,955	—	—	27,167,039
預り金	11,275,589	1,637,654	61,604	—	12,974,847
未払法人税等	—	122,200	—	—	122,200
県使用料預り金	504,623	84,957	—	—	589,580
未払消費税等	5,053,200	1,200,135	63,165	—	6,316,500
賞与引当金	26,008,445	4,500,449	140,882	—	30,649,776
流動負債合計	213,334,153	30,257,681	274,123	—	243,865,957
2 固定負債					
退職給付引当金	39,595,330	7,716,358	30,333	—	47,342,021
固定負債合計	39,595,330	7,716,358	30,333	—	47,342,021
負債合計	252,929,483	37,974,039	304,456	—	291,207,978
III 正味財産の部					
1 指定正味財産					
指定正味財産合計	145,892,077	1,651,550	61,300,000	—	208,843,627
(うち基本資産への充当額)	(61,300,000)	(—)	(61,300,000)	(—)	(122,600,000)
(うち特定資産への充当額)	(84,592,077)	(1,651,550)	(—)	(—)	(86,243,627)
2 一般正味財産	356,543,028	46,918,473	57,582,119	—	461,043,620
(うち特定資産への充当額)	(230,510,205)	(242,450)	(14,300)	(—)	(230,766,955)
正味財産合計	502,435,105	48,570,023	118,882,119	—	669,887,247
負債及び正味財産合計	755,364,588	86,544,062	119,186,575	—	961,095,225